

鳥取大学医学部におけるヒューマン・コミュニケーション
 授業の効果：コミュニケーション能力及び自尊感情への
 自己評価の変化に注目して

- ¹⁾ 鳥取大学医学部総合医学教育センター学部教育支援室
²⁾ 鳥取大学医学部総合医学教育センター長
³⁾ 鳥取大学医学部医学科機能形態統御学講座適応生理学分野
⁴⁾ 福岡県立大学人間社会学部

高塚人志¹⁾, 中野俊也¹⁾, 白石義光¹⁾, 高橋洋一¹⁾, 入澤淑人¹⁾,
 黒沢洋一²⁾, 河合康明³⁾, 吉岡和子⁴⁾

Effectiveness of the Human Communication Course at Tottori
 University, Faculty of Medicine:

Hitoshi TAKATSUKA¹⁾, Toshiya NAKANO¹⁾, Yoshimitsu SHIRAIISHI¹⁾,
 Yoichi TAKAHASHI¹⁾, Yoshito IRIZAWA¹⁾, Youichi KUROZAWA²⁾,
 Yasuaki KAWAI³⁾, Kazuko YOSHIOKA⁴⁾

- ¹⁾ *Office for Undergraduate Education, General Center for Medical Education,
 Faculty of Medicine, Tottori University.*
²⁾ *Head of General Center for Medical Education, Faculty of Medicine, Tottori University.*
³⁾ *Division of Adaptation Physiology, Department of Functional Morphological and
 Regulatory Science, School of Medicine, Faculty of Medicine, Tottori University.*
⁴⁾ *Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences,
 Fukuoka Prefectural University, Japan*

ABSTRACT

The Human Communication course in the first grade of Medical Course at Tottori University is composed of two elements: "experiential learning to raise awareness," which encourages students to reconsider human relationships in daily life and their own way of life, and "experience involving infants," which helps students to practice what they have learned through these intergenerational relations. In the present study, questionnaires were administered to students to examine the effectiveness of this course. The survey results suggested that the continuous Human Communication course improved basic manners and communication skills, while the students did not feel satisfactory change of self-respect by this course. Future tasks include developing new ideas for maintaining and heightening communicative abilities in students

of the Human Communication course taken in the first half of second year. Since the findings indicate that changes in the level of self-esteem are weak when compared to communicative abilities, course content and progress should be reexamined and follow-ups should be further developed, including one-on-one student conferences. (Accepted on April 13, 2012)

Key words : human communication, experiential learning, interactive involvement with young children, communicative abilities, self-respect

はじめに

近年、医学部における人間性教育の必要性が「わが国の大学医学部（医科大学）白書2003の検証と補遺（平成16年5月）」¹⁾の冒頭に緊急課題として取り上げられる中で、各大学で取組が始められている。また、医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン（平成19年度改訂版）²⁾の中で、最新の「基本事項」の中に、「コミュニケーションとチーム医療の項」が掲げられ、コミュニケーションの重要性が取り上げられている。

医師は患者さんが抱えている病気を見るだけでなく、経済的、社会的、精神的な諸問題といった背景の状況も含めて、全人的に向き合う医療を提供することが大切である。そのためには、医師として人として人間性を磨き、患者さんと十分コミュニケーションをとり、患者さんの気持ちや立場を理解することが重要である。また、全人的医療を提供するためには、チーム医療を展開する必要がある。ここでも医師は、他職種の人々の役割や考え方を理解するために、優れたコミュニケーション力が必要とされる。

コミュニケーション力とは、会話の意味を的確につかみ、感情を理解し合う力のことである³⁾。人と人との関係を良い関係にしていくために、情報伝達だけでなく他者の感情面に心を配りコミュニケーションすることで、仕事がスムーズにいき、ミスもカバーしやすい。

鳥取大学医学部は、こうした認識にたって、地域医療教育の土台として、人間性向上教育とプロフェッショナルリズム教育を重視してきた。そして、その教育理念を実現するために、平成19年から特別教育研究経費の助成を受けて、「地域医療を担う全人的医療人養成事業」を展開している。

この事業の特徴でもあり、中心的活動が、「ヒューマン・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」授業

である（ヒューマン・コミュニケーション授業自体は平成17年4月より実践中）。この授業は、医学科1年次及び2年次の学生を対象とし、基礎編である「気づきの体験学習」と、実践編である「異世代との交流実習」という二つの大きな柱の継続的学習から構成されている。前者では、自分が他者と接する時の態度をふりかえり、仲間とわかちあう演習を行い、学生が自分の良いところ、良くないところなどに気づく機会を与える。また、今の自分自身の生き方や人間関係を見直し、どのような人間関係をつくっていくのかを考える場としている。後者の交流実習は、体験学習で気づき学んだことを、乳幼児（1年次）や高齢者（2年次）との継続的な交流の中で体験的に理解する場とし、良好な人間関係を構築するのに大切な自尊感情やコミュニケーション能力を育む一助とすることを目ざしている。この授業を通して、学生のコミュニケーション力や対人関係の在り方に好ましい変化が生じてきている⁴⁾⁶⁾。

平成22年3月に「地域医療を担う全人的医療人養成事業」の一環として、ヒューマン・コミュニケーション授業を見直し、改善していくことを目的として、学外の有識者に外部評価委員を委託し、評価・提言を受けた。その提言を参考として授業の見直しを行い、平成23年度の前期に医学科1年次生（「ヒューマン・コミュニケーションⅠ」授業）に対して「気づきの体験学習：90分1コマ×2×7回」、 「異世代との交流実習（乳幼児との関わり体験）：90分1コマ×2×8回」を実施した。本報告は、その授業を通してコミュニケーション能力及び自尊感情への自己評価の変化がどのように変化したのかに注目し、検討を行うことを第一の目的としている。さらに、第二の目的として、授業の感想をもとに本授業の効果を検討する。

対象および方法

1. 対象と調査時期

対象は、鳥取大学医学部医学科1年生102名（男性61名、女性41名）である。調査時期は、授業開始前の調査は平成23年4月であり、授業終了後の調査は平成23年7月である。

2. 調査方法

著者の一人が授業中に、アンケートを配布した。倫理的配慮として、アンケート配布時に調査の目的と方法、研究への協力は自由意思によること、研究に同意しなくても、対象者の学業における成績や評価に影響しないこと、研究協力者の人権やプライバシーは保護されること、調査結果は統計的に扱い、個人が特定されることはなく、本研究の目的以外に他用することはないこと、投函した時点で研究への協力を同意を得たものとするを口頭で説明した。上記について同意が得られた対象者のみ実施した。

3. 調査内容

アンケート2以外は、鳥取大学医学部総合医学

教育センター学部教育支援室で作成したものである。

1) アンケート1

授業開始前、授業終了後に配布した。表1の9項目について「はい・いいえ・わからない」の3件法で回答を求めた。

2) アンケート2

表2に項目内容を示す。心理尺度ファイル(1994)⁷⁾の自尊感情尺度を用い、授業開始前、授業終了後に配布し、10項目について「1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. ややあてはまらない 5. あてはまらない」の5件法で回答を求めた。

3) アンケート3：授業を通しての自己変化

授業終了時に、表3の9項目について「1. そう思う 2. 少しそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない 5. わからない」の5件法で回答を求めた。

4) アンケート4

授業終了時に配布し、9項目(表4)について「1. そう思う 2. 少しそう思う 3. あまりそう思わ

表1 アンケート1の項目内容

<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的なマナーは身につけている。 2. コミュニケーション能力（共感的理解力、受容力）を身につけている。 3. 私は他人と関わるのが苦手である。 4. 挨拶や自己紹介が苦手である。 5. 相手と目線をあわせ、温かいまなざしで対応することができる。 6. 相手の表情や行動から相手の気持ちをくみとることができる。 7. 相手の気持ちや考えを受けとめたうえで、行動することができる。 8. 自分や仲間の長所を素直に認めることができる。 9. 乳幼児とふれあうことは苦手ではない。
--

表2 アンケート2の項目内容

<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分は、少なくとも人並みには価値のある人間である。 2. 自分は、いろいろと良い素質をもっている。 3. 「自分は負け組みだ」と思うことがよくある。 4. 自分は、物事を人並みにはうまくやれる。 5. 自分には、自慢できるところあまりない。 6. 自分に対して、肯定的である。 7. だいたいにおいて、自分に満足している。 8. もっと自分自身を尊敬できるようになりたい。 9. 「自分はダメ人間だ」と思うことがある。 10. 何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う。

ない 4. そう思わない 5. わからない」の5件法で回答を求めた。

5) アンケート5：自己成長

授業終了時に、授業をふりかえってもらい、以下の3つの質問に回答を求めた。

(1) 鳥取大学では、「人間力」を、「知力」、「実践力」、「気力」、「体力」及び「コミュニケーション力」の5つの構成要素から成り立つ総合的かつ人格的能力として定義しています。下記に示す人間力の第2階層の中で、この授業を通して身につけたと思うものに○印をつけてください（いくつでもよい）。「共感的理解力」「受容力」「プレゼンテーション力」「自己コントロール力」「適応力」「持続力」「経験力」「リーダーシップ」「行動力」「発想力」「創造力」「総合的判断力」「論理的分析力」「バイタリティ」「チャレンジ精神」

(2) 授業をふりかえって、人間的に成長したことベスト3をあげてください。（自由記述）

(3) ここで得たことを、ふだんの生活や将来の夢にどう生かしたいと思いますか。（自由記述）

コミュニケーション能力については、アンケー

ト1で自己評価の変化について、アンケート3及びアンケート4の項目3, 4, 8で授業終了後の自己評価について検討する。自尊心については、自己評価の変化をアンケート2, 授業終了後の自己評価をアンケート4の項目6で検討する。本授業の効果については、アンケート4の項目1, 2, 5, 7, 9及びアンケート5の(2)の自由記述内容をもとに検討する。アンケート5の項目1と3については、本研究の目的を考慮し、分析から除外する。

4. 分析方法

χ^2 乗検定により人数比較を行う。期待度数が5未満のセルがある場合は、Fisher's exact testで検討を行う。授業終了後に配布したアンケート3, 4については、5件法のうち「そう思う」と「少しそう思う」の人数の合計と「あまりそう思わない」「そう思わない」の人数の合計を求め、その人数の差を正確二項検定で検討する。アンケート5の(2)の自由記述については、筆者らで協議して分類する。

表3 アンケート3の項目内容

1. 受講前に比べると、基本的なマナーは身についたと思う。
2. 受講前に比べると、コミュニケーション能力（共感的理解力、受容力など）が身についたと思う。
3. 受講前に比べると、私は他人と関わるのが苦手ではなくなったと思う。
4. 受講前に比べると、挨拶や自己紹介が苦手ではなくなったと思う。
5. 受講前に比べると、相手と目線をあわせ、温かいまなざしで対応できるようになった。
6. 受講前に比べると、相手の表情や行動から相手の気持ちをくみとることができるようになったと思う。
7. 受講前に比べると、相手の気持ちや考えを受けとめたうえで、行動することができるようになったと思う。
8. 受講前に比べると、自分や仲間の長所を素直に受けとめることができるようになったと思う。
9. 受講前に比べると、乳幼児とふれあうことは苦手ではなくなったと思う。

表4 アンケート4の項目内容

1. この授業は、自分をふりかえるよい機会となっていると思う。
2. この授業を通して、自分自身の生き方やふだんの人間関係に変化があったと思う。
3. この授業は、改めて基本的なマナーを身につける一助になっていると思う。
4. この授業は、「コミュニケーション力」を高めることの一助になっていると思う。
5. この授業は、ホスピタリティ・マインド（思いやりの心）への気づきの一助になっていると思う。
6. この授業は、「役立ち感」を実感し、「自己肯定感」の芽を育むことの一助になっていると思う。
7. この授業は、心の癒しや元気、やる気を育む一助になっていると思う。
8. この授業は、仲間のよいところが見えると思う。
9. この授業は、仲間づくりの一助に役立っていると思う。

5. 倫理審査

本研究は、鳥取大学医学部における医学研究倫理審査委員会での承認を得た上で実施した。

結 果

1. 対象者の背景

授業開始前、授業終了後に配布したアンケートについて、いずれも102名（男性61名、女性41名）の回答が得られた。回収率は100%であったが、項目によっては欠損値があったため、除外して分析する。授業終了後にのみ配布したアンケートについては、100名（男性60名、女性40名）の回答が得られ、回収率は98.0%であった。

2. コミュニケーション能力について

1) 自己評価の変化

結果を表5に示す。

Fisher's exact testの結果、アンケート1の項目1と項目3で有意な差が見られた。残差分析の結果、項目1「基本的なマナーは身につけている」では「はい」と回答した者が4月に比べて7月において有意に多くなっていた。項目3「私は他人と関わるのが苦手である」については、「いいえ」と回答した者が4月に比べて7月では有意に少なくなっていた。

2) 授業終了後の自己評価

結果を表6に示す。

アンケート3及び4の項目3, 4, 8において、人数の差はすべて有意であり、受講前と比べて自分のコミュニケーション能力が変化したと思う者が思わない者に比べて多くなっていた。

3. 自尊感情について

1) 自己評価の変化

結果を表7に示す。

Fisher's exact testの結果、アンケート2の項目5と項目6で有意な差が見られた。残差分析の結果、項目5「自分には、自慢できるところがあまりない」では「ややあてはまらない」と回答した者が4月に比べて7月では有意に少なくなっていた。また「どちらともいえない」と回答した者が、4月に比べて7月では有意に多くなっていた。項目6「自分に対して、肯定的である」については、「ややあてはまる」と回答した者が4月に比べ7月では有

意に多くなっており、「どちらともいえない」と回答した者は、4月に比べて7月には有意に少なくなっていた。

2) 授業終了後の自己評価

アンケート4の項目6「この授業は、「役立ち感」を実感し、「自己肯定感」の芽を育むことの一助になっていると思う。」についての回答の内訳は「そう思う」17名、「少しそう思う」33名で、「あまりそう思わない」34名、「そう思わない」7名、「わからない」9名であり、評価が2分されていた。Fisher's exact testを行った結果、有意な人数の差が見られなかった。

4. 本授業の効果

アンケート4の項目1, 2, 5, 7, 9の結果を表8に示す。

Fisher's exact testの結果、すべての項目で有意であり、「仲間づくりの一助に役立っている」「自分をふりかえるよい機会となっている」など、授業が役に立っていると思う者が思わない者より多くなっていた。

アンケート5の自由記述の回答数は297であった。記述内容をもとに、1つの回答に複数の内容が含まれていたものをさらに抽出して、表9のように、分類した。その結果、回答数は302となり、「コミュニケーション能力」「聴くこと」「他者受容」「客観性」「自己受容」「その他」の6つのカテゴリーに分類した。「コミュニケーション能力」の細目として、回答数が多い順に「他者にあたたかい関心を持つ」「積極性」「対人苦手意識の改善」「コミュニケーション力」「小さな子どもとの関わり」「自己表現力」「あいさつ」「対人関係構築の工夫：心を開く」「笑顔」「人間関係の広がり」「表情」「礼儀」「他者への関心の芽生え」「ホスピタリティ」に分類した。「聴くこと」の細目として「聴く力」「聴く態度」「聴くことへの意識の高まり」に分類した。「他者受容」については、「他者の良いところを見つける」「他者を思いやる気持ち」「感謝」「協調性」に分類した。「客観性」では、「自分を見つめる力」と「客観的に物事を見る力」に分類した。「自己受容」は、「自己受容」の1つの細目で分類し、「その他」は、「あきらめない」「我慢」の2つの細目となった。

表5 コミュニケーション能力について：自己評価の変化

アンケート1	はい		いいえ		わからない		χ^2 値	p値
	4月	7月	4月	7月	4月	7月		
項目1	52▽	68▲	5	3	44	31	4.882	0.087
項目2	38	51	11	10	52	41	3.243	0.189
項目3	18	26	72▲	55▽	11	21	6.850	0.033
項目4	41	34	49	61	11	7	2.846	0.235
項目5	63	71	8	8	30	23	1.397	0.490
項目6	54	67	6	5	40	30	2.897	0.218
項目7	58	70	3	4	40	28	3.381	0.209
項目8	84	75	8	9	9	15	2.048	0.366
項目9	69	75	16	15	16	12	0.849	0.685

▲有意 (p<.05) に多い, ▽有意 (p<.05) に少ない

表6 コミュニケーション能力について：授業終了後の自己評価

アンケート3	そう思う／ 少しそう思う	あまりそう思わない ／そう思わない	p値	わからない
	項目1	85		
項目2	90	7	0.0000	3
項目3	78	21	0.0000	1
項目4	69	27	0.0000	4
項目5	85	13	0.0000	2
項目6	80	15	0.0000	5
項目7	79	14	0.0000	7
項目8	76	20	0.0000	4
項目9	86	13	0.0000	1
アンケート4				
項目3	86	11	0.0000	3
項目4	92	5	0.0000	3
項目8	95	4	0.0000	1

考 察

人間関係が希薄になりつつある時代の流れに加えて、少子高齢化、核家族化、メールやインターネットの普及などによって、家族のあり方や地域社会の結びつきも変わってきた。それにより、生身の人間との関わり体験が未熟なまま人が育ち、人間関係がうまくいかず息苦しさを感じながら生きている若者も少なくない。国民的規模で、人より良い関係を築く力が未熟になっているのではないか。

とりわけ、医学生は、受験を勝ち抜くために、様々な人間関係体験の場を犠牲にしていることも

稀ではない。入学してきた医学生のアンケート調査から、「他者と関わるのが苦手」、「コミュニケーションが苦手で、自分の気持ちを上手く表現できない」という学生像が浮かび上がってくる。こうした問題は、医療現場で「患者さんや家族をはじめ、チーム医療を实践する他の医療人と心から真剣に向き合えない研修医」につながる。

つまり、今の時代にあっては、人として、医療人として、当たり前のはずの人間性や人間関係、コミュニケーションを学ぶ場を意図的に提供することが必須になっている。本学では、良好な人間関係を構築するのに大切なコミュニケーション能力や自尊感情を育む「ヒューマン・コミュニケー

表7 自尊感情について：自己評価の変化

	あてはまる		ややあてはまる		どちらともいえない		ややあてはまらない		あてはまらない		χ^2 値	p値
	4月	7月	4月	7月	4月	7月	4月	7月	4月	7月		
項目1	23	35	44	40	30	22	3	3	1	2	4.233	0.352
項目2	9	23	34	52	31	38	9	7	0	0	4.250	0.236
項目3	5	6	14	22	19	27	33	21	30	26	6.208	0.184
項目4	20	21	27	33	33	29	18	17	3	2	1.106	0.895
項目5	11	8	36	30	17▽	38▲	29▲	16▽	8	10	13.01	0.010
項目6	18	15	25▽	40▲	32▲	13▽	17	25	9	9	13.28	0.009
項目7	13	15	37	33	21	22	20	21	10	11	0.462	0.981
項目8	58	47	24	36	12	14	4	2	3	3	4.368	0.344
項目9	21	21	40	42	18	17	11	15	11	7	1.577	0.819
項目10	2	6	19	21	29	31	33	26	18	18	2.992	0.580

▲有意 (p<.05) に多い, ▽有意 (p<.05) に少ない

表8 授業の感想：アンケート4

	そう思う／ 少しそう思う	あまりそう思わない／ そう思わない	p値	わからない
項目1	95	4	0.0000	1
項目2	82	15	0.0000	3
項目5	90	8	0.0000	2
項目7	71	24	0.0000	5
項目9	99	1	0.0000	0

ション授業」を実践しているが、本報告は、平成23年度の前期に行われた医学科1年次の「気づきの体験学習」、「異世代との交流実習（乳幼児との関わり体験）」を通して、まず、コミュニケーション能力及び自尊感情への自己評価の変化がどのように変化したのかに注目した。さらに、授業の感想をもとに授業の効果を検討することを目的とした。

コミュニケーション能力について、まず、この授業を通して基本的マナーが向上したと学生が感じていることや改めて基本的マナーを身につける一助になっていることが窺われた。そして、注目すべきは、学生自らが授業をふりかえって、人間成長したことベスト3を自由記述するアンケート5の回答数（302）の中でコミュニケーション能力に関するカテゴリーが最も多いことである。コミュニケーションの基本である「他者にあたたかい関心を持つ」「積極性」や「対人苦手意識の改善」など、学生は自らの変化や成長を感じながら、授業を通してコミュニケーション能力が向上したと

自己評価していると考えられる。

自尊感情については、「自慢できるところがあまりない」とは言い切れないと感じる人が少なくなったり、自分に対して肯定的になったりと自己評価が変化していると思われる。

一方、授業終了後の自己評価（アンケート4）を検討した結果、「6. この授業は「役立ち感」を実感し、「自己肯定感」の芽を育むことの一助となっていると思う」では、そう思う者とそう思わない者の割合が約半数ずつとなっていた。本授業の効果を検討したアンケート5（自由記述）において「自己受容」の回答数が総数に比して少ないことから、コミュニケーション能力に比べて、授業を通して自尊感情の変化を実感する程度は弱かったことが推察された。

授業の感想から、本授業の効果を検討したところ、まず、この授業が自分自身と向き合い、自分自身の生き方や人間関係など自分を見つめ直す機会となり、この授業を通して、自分自身の生き方やふだんの人間関係に変化を感じていることが窺

われる表現がアンケートに多くみられた。さらに、授業を通して、やる気や元気を育んだり、「知り合いが増えた」「新しい友達の新しい一面を知れた」など、授業を通して仲間づくりが行われたことが推察された。

結 語

「ヒューマン・コミュニケーションⅠ」授業の継続的な実践により、学生のコミュニケーション能力を高めたり、自らの生き方やふだんの人間関係を見直す機会や学生の仲間づくりを促進したりすることが示唆された。さらに、2年次前期でも「ヒューマン・コミュニケーションⅡ」授業は行われるが、夏期休業から後期の授業期間は「ヒューマン・コミュニケーション」授業が行われないので、いかにコミュニケーション能力を維持し高めていくか2年次の授業の工夫が求められる。自尊心は、コミュニケーション能力に比べて、授業を通しての変化を実感する程度は弱かったことが推察されたので、あらためて授業の内容や進め方について検討したい。

稿を終えるにあたり、本授業にあたり鳥取大学医学部医学科学生と乳幼児との関わり体験でご協力頂いた社会福祉法人こうほうえん（キッズタウン24上後藤・第2保育園）の皆様、乳幼児、乳幼児の保護者に感謝致します。また、懇切なるご指導・ご校閲を賜りまし

た鳥取大学医学部総合医学教育センターのスタッフに深甚なる謝意を捧げます。

文 献

- 1) わが国の大学病院医学部（医科大学）白書 2003の検証と補遺，全国医学部長病院長会議（AJMC）医学部（医科大学）の基本問題に関する委員会，2004年5月16日：p1
- 2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—平成19年度改訂版，モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会，2007年12月：p3-4
- 3) 齋藤孝，コミュニケーション力，岩波新書，東京，2004.
- 4) 高塚人志，いのちを慈しむヒューマン・コミュニケーション授業，大修館，東京，2007.
- 5) 高塚人志，そばにいる人からよろこばれる喜び，今井書店，鳥取，2007.
- 6) 長宗雅美，寺嶋吉保，小野香代子，他，現代GP「医療系学生の保育所実習による子育て支援」：乳幼児との継続交流による体験型コミュニケーション授業実施報告と終了時の評価，大学教育研究ジャーナル2008；5: 105-15.
- 7) 堀洋道，山本真理子，松井豊（編），心理尺度ファイル 人間と社会を測る，垣内出版，東京，1994 p.67-69.

表9 アンケート5-2 自由記述

コミュニケーション能力	
他者にあたたかい関心を持つ (27)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が何を考えて、どう思っているかくみとろうとすること ・相手が話している時の気持ちを考えること ・相手の気持ちを考え、くみとろうとすることになった ・相手の気持ちを考えて行動できるようになった ・相手の気持ちを考えながら話をするようになった ・相手の気持ちを考えながら話せるようになった ・相手の気持ちを考えられるようになった ・相手の気持ちを考えること ・相手の気持ちを考えるようになった (2) ・相手の気持ちをくみとる努力をするようになった ・相手のことを考えるようになった ・相手の視点から物事を見る能力 ・相手の立場に立って物事を考えるようになった ・相手の表情や声の調子から気持ちを察することができるようになったこと

<p>他者にあたたかい関心を持つ (27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の表情を見ながら気持ちを考えて接するようになったこと ・以前より少し、人の気持ちを考えられるようになったと思う ・相手のことを考えることが出来るように少しなったと思う ・人と関わる時、相手の気持ちを知らうと意識するようになった ・人と接していく中で人の行動や気持ちを考えてやることのできるようになったこと ・他者の価値観を理解すること ・相手の表情などから気持ちを読み取り、行動できるようになった ・相手の話す時の表情、言葉、声の調子、細かな仕草などから、相手の気持ちをより深く感じ取れるようになった ・相手の考え方を理解できるようになった ・相手を理解しようとする力が授業によって磨かれたと思います ・相手を理解する ・他人の事をもっとよく見れるようになった
<p>積極性 (24)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極性 (5) ・今までは、自分とは性格が全く違うような人とはあまり触れ合わないようにしたりと、選り好みした人間関係だったが、色んな人と積極的に関わり合えるようになった ・自分が苦手だと思ふ事にも積極的に取り掛かるようになった ・自分から挨拶などをしようとする積極性 ・知らない友達と積極的に関わられたこと ・仲間と積極的に関わっていかうとする姿勢がもてるようになった ・何が起きてもいいからとりあえずやってみようと思き直ることでチャレンジ精神を得ることができた ・人とのコミュニケーションを積極的にとろうと思ふようになった ・(自分から) 園児とも積極的に関わられたこと ・積極性が上がった ・積極的に会話に入れるようになってきたこと ・積極的に話しかけられるようになった ・以前より少し、積極的になれたと思ふ ・積極的に話しかけたりできるようになった ・バイタリティ(時と状況にもよりますが、やはり向上心や積極性といったバイタリティが人と人とのつながりを強くすると感じ、授業を通して強化できました) ・話す勇気がわいた ・人と自分から関わろうとすること ・人と積極的に関わられるようになった ・前向きに考えられるようになった ・適応力. 新しい環境や不慣れな環境においても、他者と積極的に関わり合いを持つことで、適応できる力が身に付きました
<p>対人苦手意識の改善 (20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人と関わるのがあまり苦ではなくなった ・人間を怖れないようになった ・初めての人と話す事が苦手ではなくなった ・初対面の人とも話し易くなった

<p>対人苦手意識の改善 (20)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人に対する苦手意識が薄れました ・ 人見知りが少し改善した ・ 人見知りな私でも、それなりに人と関わることの苦手意識を軽減できたこと ・ 人とうまく関われるようになった ・ 医学部の仲間と普通に交流できるようになり、人と交流して自分が傷付く恐怖を少しずつ克服することができるようになった ・ 人見知りが改善したこと。 ・ 何よりも、人とコミュニケーションをとる時に感じていた不安がなくなり、人と関わることにより大きな幸せを感じられるようになったことが一番嬉しいです！（人間的成長かどうかはわかりませんが） ・ はずかしさから人と話すのが苦手だったのが改善された ・ 初対面の人とも恥ずかしがらずに話せるようになったこと ・ 初対面の人とも話し易くなり、人間関係が楽やすくなった ・ コミュニケーション力に自信がないこともあり、自分から話しかけたりするのに苦手意識があったけれど、今は話しかけやすくなりました ・ あまり話したことの無い人にも自分から話しかけにいけるようになった ・ 全然知らない人にも話しかけていく勇気を得られたこと ・ 話したことの無い人にも話しかけられるようになった ・ 今まで、人見知りをしてしまうことも多く、見た目だけで「きっとこの人は自分とは合わない人だ」と考えてしまう自分がいたが、誰とでも話せるようになってきたと思う ・ 今まであまり関わった事のないタイプの人に見えても、とりあえず一度話しをしてみようという考えを持つようになった
<p>コミュニケーション力 (18)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション能力が高くなったこと ・ コミュニケーション力 (4) ・ コミュニケーション力 (クラスメート, 0才のパートナー, パートナーの保護者など様々な人との交流の経験値を増やすことができました) ・ 人とコミュニケーションをとる心構え ・ コミュニケーションのとり方 ・ コミュニケーションスキルの基礎を身につけたこと ・ 上手な質問を投げかけられるようになった ・ 話をするのが少し上達した ・ 相手に何かを伝える時の姿勢が改善した ・ 人の目を見て話す事ができるようになった ・ 相手の目を見て話せるようになった ・ 人と会話するとき、態度が相手にどう影響を与えるのかを身を持って体感したこと ・ 話の受け答えがしっかりできるようになった ・ コミュニケーションの難しさ、奥深さについて考えるようになったこと ・ コミュニケーションを重視するようになったこと

小さな子どもとの関わり (16)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと遊べるようになったこと ・子どもへの接し方を学んだ (2) ・小さな子どもとの関わり方 ・乳幼児と楽しく触れ合えるようになった ・乳幼児とのコミュニケーションがとれるようになったこと ・乳幼児とコミュニケーションをとれるようになってきた ・小さな子どもとコミュニケーションをとることができるようになった ・乳幼児とも関わり合えるようになった ・幼児と接することに対する苦手意識が取れたこと ・幼児に対して苦手意識が少なくなった ・幼児との関わりで子どもとの接し方を少し掴めたこと ・言葉以外のコミュニケーション方法で、小さな子どもと関わるすべを学んだこと ・乳幼児との触れ合い方に自信がついた ・乳幼児に心を開けるようになった ・小さな子どもたちとの関わりを持って、彼らとの関わり方を理解、実践できたこと
自己表現力 (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えることができるようになった ・自分の考えを、隠さずに伝えるようになった ・自分の気持ちをいかに伝えるかということ ・自分の気持ちをうまく表現できるようになった ・自分の話をきちんと伝えるために工夫するようになったこと ・自分のことを紹介する能力 ・自分のことを素直にさらけ出す(心をひらく)ことが出来るようになった ・人に気持ちを素直に伝えられるようになった ・今までより感情表現が豊かになった ・自分のことを相手に分かってもらいたい時にどうすれば良いかを身につけられました ・自分の事を少し人に話せるようになった ・自分を表現できるようになった
あいさつ (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ (2) ・あいさつからコミュニケーションを始めようという意識を持つようになった ・挨拶の重要性 (に気付けた, を再認識した, を理解した) ・あいさつの大切さ ・今まであいさつしない者にはしないと、あいさつの苦手な人を尊重してあげていたが、やはり全部それなりにやろうと思直した ・挨拶をより積極的にできるようになった ・以前よりも気持ちのよいあいさつを届けられるようになったと思います ・しっかり挨拶ができるようになった ・よく挨拶をするようになった

<p>対人関係構築の工夫：心を開く (8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて会う人との話題づくり ・人とうまくつきあうために色々と試行錯誤を重ねたこと ・相手に対する興味、自分のことを知ってもらいたい、という2つの気持ちがあれば、誰とでも分かり合える気がした ・自ら心開くことの重要性 ・心を閉じずにできるだけ心を開くこと ・心から会話できるようになった ・お互いに心を開けるよう、まずは自分の心を開こうと思えるようになった ・人との関わりの大切さを知ることができた
<p>笑顔 (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で応対できるよう心がけるようになった ・笑顔で人に接することができるようになったこと ・笑顔の大切さに気づいた ・人と笑顔で話すようになった ・笑顔の数が、受講前より増え、笑顔を意識的に心がけられるようになった ・笑顔を常に意識できるようになった
<p>人間関係の広がり (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医学科の仲間たちの自分とは違う考え方を聞いたこと ・医学科での知り合いが増えたこと ・人間関係が広がった ・新しい友達の新しい一面を知れた ・授業中に医学科の仲間の色々な話を聞く中で、普段話をしないような人と普段しないような話をすることができ、多様な価値観に触れ多様な価値観があることを知ることができました
<p>表情 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表情豊かに ・(子どもと接することで) 表情が柔和になった気がする ・表情に気を付けて話そうとすること ・自分の表情が相手に与える影響について知ったこと ・表情をコントロールできるようになった
<p>礼儀 (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀やマナーなど基本的なこと ・礼儀を少し勉強できたこと ・礼儀に、より気をつけるようになったこと ・人とコミュニケーションをとる時のマナーが身についた ・自分の身だしなみをもっと意識するようになった
<p>他者への関心の芽生え (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は一人で生きているような振る舞いを繰り返してきたが、ユーモアを通して自分以外の人間に少しずつ興味が出始めた ・人に少しだけ関心を持つようになったこと ・人に関心を持てるようになったこと ・今まで以上に他者に興味を持つようになった
<p>ホスピタリティ (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティの観点で物事を見れるようになったこと ・ホスピタリティ・マインドが身についた
<p>聴くこと</p>	
<p>聴く力 (22)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話をしっかり聞けるようになったこと ・他人の話をしっかり聞くこと ・人の話をしっかり聴く (2)

聴く力 (22)	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話をきっちり聞くこと ・人の話を聴く (3) ・よく人の話を聴けるようになった(自分の話をするばかりではなくて、人の話を聴けるようになった) ・聴く力 (3) ・人の話を「聴く」ことができるようになった ・人の話をまずは聞く(聴く!)ことができるようになった ・相手の話をきちんと聴きしっかりと受けとめる力を養うことができたと思います ・相手の話をじっくり聞けるようになった ・話を聞く能力 ・話をきく力 ・人の話を聞く能力 ・人の話を最後まで聴けるようになった ・人の話を聞くのが上手になった ・聴くことが上手になった
聴く態度 (21)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞く態度が身に付いてきたこと ・相手の話を聞くときに、ちゃんと相手の顔の表情を見たり、相槌を打ったりできるようになった ・話し相手の目を見て、うなずいたりして自分の感情を示しながら、しっかり聴けるようになった ・人と関わる時に、視線や表情も気にするようになった(自分も、相手も) ・人の話に耳を傾けることができるようになった ・人の話に耳を傾けるようになった ・人の話を興味を持って聞けるようになった ・良い聴く態度を知り、改善できたこと ・相手に体を向けて話を聴けるようになった ・相手の話をちゃんと聞こうとするようになった ・人の話を「聴こう」とする姿勢が身についてきた ・相手の目を見て話が聞けるようになった ・相手の目を見るなど聞く姿勢に意識を向けるようになった ・会話の中で視線や表情など言葉以外のコミュニケーションがいかに重要か学ぶことができました ・人の話を聞くベストな態度を身につけられました ・相手の話を聴く姿勢が成長した ・言葉以外のコミュニケーション ・人の意見を相手の目を見て聞くことができるようになった ・人の話を聞く姿勢がよくなった ・視線を合わせることの大切さを知れた ・聴く姿勢を身につけたこと
聴くことへの意識の高まり (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聴くという意識が強くなった ・聴くことの大切さに気づいた ・人の話のきき方の大切さを理解できたこと ・「きく」姿勢の大切さ ・人の話を聞く時の姿勢について以前より意識するようになった

聴くことへの意識の高まり (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・聴くことを意識しはじめた ・聴くことを大切にできるようになったこと
他者受容	
他者の良いところを見つける (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の欠点ではなく、長所を見ることができるようになった ・他人を素直にほめること ・人の良い所を自然と探せるようになった ・人の良い所をたくさん見つけられるようになった ・相手の良い所を見つけ、素直に認められるようになった ・直接関わりがなくても、周りの仲間の良い面が見えるようになった ・仲間の良い所をもっと見つけよう、とするようになった ・人のかっこいいのは、受け入れられるようになった ・友達の良い面を知ろうと頑張れたこと
他者を思いやる気持ち (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を思いやる気持ち ・相手を思いやる心をもてるようになったこと ・他者への思いやり ・他人を思いやる気持ちをもてるようになった ・自分には分かっていることだが、相手は知らない、そのような状況下であっても、相手を気づかい分かりやすく伝えようとするようになったこと ・思いやる気持ち ・他人を思いやる気持ち
感謝 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちを以前よりも持つようになった ・周囲の人に感謝できるようになったこと。特に、保育園実習を通して自分の親への感謝を改めて感じた。 ・自分の周りにいる人が自分を大切にしてくれていることが分かった ・ちょっとしたことでも、友人や家族に感謝の言葉を言ってあげられるようになった ・自分の周りの人に感謝の気持ちをもてるようになったこと ・周囲の人への感謝の思いを感じるようになった
協調性 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・協調性 (3) ・私自身というよりはクラス全体のことで、協調性はあったと思うけれど、発揮する場面はなかなか無いので、みんなで園児達を楽しませる、という一つの目標に向かって頑張れたと思います
客観性	
自分を見つめる力 (16)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析がよくなるようになった ・自分のことを少し客観的な目で見ることができたこと ・自分のことを改めてふりかえることで、自分のことが少し分かった ・自分をちゃんと見つめ直そうと努力できるようになったこと ・今までも悩んできた人見知りなどの自分の性格と向かい合い、改善の糸口を見つけることができたと思います ・自分自身を見つめ直し、悪いところを直そうという気になれた ・自己反省をすることが多くなった ・自身のコミュニケーションのとり方を客観的に見つめられるようになったこと ・自分を知る

自分を見つめる力 (16)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を知れるようになったこと ・ 自分自身が今どう思っているかを考えること ・ 今まで以上に、人とのコミュニケーションにおいて自己反省を積極的にできるようになったので、自己を省みて、より良いコミュニケーションを実現するための布石を敷く努力をするようになりました ・ 自分をきちんと見つめ直すことの大切さを改めて実感したこと ・ 今まで自分がどういう人間かとか、自分自身について深く知ろうとすることがあまりなかったが、授業を通して、自分が人間的に成長することにも気づくことができた ・ 自己管理能力 ・ 自己認識力
客観的に物事を見る力 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なことに気づけるようになったこと ・ 客観的に物を見る能力 ・ 関わりについて深く考えるようになった ・ 人との関わりが自分を成長させてくれていることに気付けたこと ・ 自分の態度が相手に与える印象に気づけたこと ・ 周りの事に広く関心を持てるようになった ・ 変な先入観や思い込みを持たない
自己受容	
自己受容 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までは、他者のいいところにばかり目がいってしまっていて、いいなどと思うことしかできなかつたり、自分は、だめだと比較したりするばかりだったけれど、あるがままに受けとめられるようになった ・ 肯定的になった(好きになる, 意義・価値を見出す, いいところを探す) ・ 自分の考えを大切にするようになった ・ 自分についてふり返ることで自分に対して思いやりを持てるようになった ・ 自分を見つめ直した上で改善するべき所のみでなく、いい所も見つけられるようになった ・ かつこよく見せようとか、しょーもないことを考えなくなった
その他	
あきらめない (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションがうまくいかないときも、あきらめずに積極的にコミュニケーションをとることができるようになったこと ・ 根気強く人に接していくこと ・ 授業中にうまくコミュニケーションできないことはよくありましたが、その中でもあきらめない忍耐強さは身に付けられたと思います ・ 人と向き合っていく根気強さが少しついたと思う ・ やろうとしていたことや初めての試みが失敗しても、周りのアドバイスをもらいながら、パートナーにとってもどんな風にしたらいいのかとよく考え、自分なりの工夫をして上手くいくようになっていけるようになったこと ・ 逆境や困難に立ち向かう強さを持てた ・ 中々進歩がなくても挫けずに続けることができるようになった ・ あきらめずにがんばれば、上手くいくことを学べた (あきらめないようになった)

あきらめない (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくいかないことでも、どうやってすれば改善できるのかなど、前向きに考えられるようになったこと ・根気強くなった ・辛抱強く他者に接せられるようになった
我慢 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・我慢することができるようになった ・我慢強さ ・我慢強くなった ・忍耐力
分類なし	<ul style="list-style-type: none"> ・共感の大切さ (幼児の涙に対して、しっかり共感して、抱きしめ、癒してやれたこと) ・以前より少し、子どもが好きになったこと ・責任感 ・何事もがむしゃらにがんばること ・文章作成力 ・向き合うことの大切さを知れた ・アドバイスを受け入れて実践するようになった ・確認の大切さを知れた ・人を変えるのではなく、自分を変えることを考えられるようになった ・嫌なことも受け容れられるようになった ・何が大切かを知った (挨拶, ホスピタリティ, 関心, そもそも「大切」に感じること) ・何事にもゆとりをもって行動できるようになったと思います ・明るさ ・幼児と交流して、新しい自分が見えてきたこと ・集団における考え方 ・包容力 ・優しくなった ・友人と関わる上で気にすべきことを身につけた ・良い人間になりたいと思うようになった